

# 「夕鶴」に想う



岡崎女子短期大学長  
長柄 孝彦 氏

## 教育随想

戯曲「夕鶴」は、昭和二十四年、木下順二により「婦人公論」一月号に発表され、山本安英の「ぶどうの会」が各地で公演を行いました。そして、その時、音楽を担当した團伊玖磨が、この戯曲を昭和二十七年にオペラ化しました。一座と行動を共にした團は、オペラ化に際し、その台詞を、役者の息遣いを感じさせるほど実に見事に音楽にのせたのです。私が所属していた名古屋オペラ協会旗揚げ公演の演目が、オペラ「夕鶴」でした。つうと与ひょうの出会い、その初々しいやり取り…次第に変わっていく与ひょう…かつての彼に戻って欲しいと願うつう…覗いてはいけない世界を覗いてしまった与ひょう…空の一点を見やりながら、雪の中で立ち尽くす与ひょう。私は自ら演じながら、舞台の上で何ともいえない寂寥感に襲われたこと



を覚えていきます。「鶴の恩返し」を下敷きに、「夕鶴」が誕生したのは約六十年前です。今でも、この物語に深い共感を覚えるのは、経済効率を最優先に追い求めてきた我々が、つうの嘆きと共通する悲しみをどこかで感じているからではないでしょうか。つうと与ひょうを隔てることになったものは、与ひょうの心の変化です。私たちも、何か大切なものを失いつつあるように思います。つうが、「あなたの言うことがなんにも分からない」と叫

んだように、今、心を伝える言葉が相手に届かないように感じます。それは、人が本来持っていた「つう」なるものの存在を、私たちが見失っていることの表れかも知れません。しかし、このような時代だからこそ、私たちは温かい社会を目指す必要があります。「取り返しのできないものを、取り返そうとする努力が、人間に行為を与えるのではないか」—木下順二の言葉は、私たちに勇気づけるメッセージのように思います。

(ながらたかひこ)



平成20年8月1日

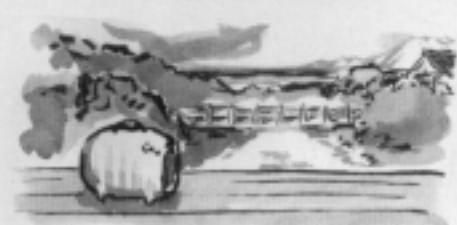
# 8月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想 ..... 1  
岡崎女子短期大学長  
長柄 孝彦氏
- この人に聞く ..... 2  
アトランタオリンピック  
バスケットボール日本代表主将  
清川 アキ氏
- 羅針盤 ..... 2  
竜美丘小学校長  
早川 正春
- ふれあい ..... 3  
矢作南小 吉田 正明  
六ツ美北中 川端 尚子
- 特集 ..... 4  
豊かな心と社会性を育てる  
異年齢・異学年交流活動
- お知らせ ..... 5  
フォト・ヒストリー ... 6  
理科教育実践発表会(昭和35年)
- この本を ..... 6

## ふるさとシリーズ この人に聞く



### 出会いと継続

アトランタオリンピック  
バスケットボール日本代表主将

清川 アキ 氏

九六年のアトランタオリンピック。彼女は、バスケットボール日本代表のキャプテンを務めた。そして、カナダ戦やアメリカ戦で勝利の立役者となり、日本代表の七位入賞に大きく貢献した。

かつて、「日本が誇る世界のスリーポイントシューター」と言われた彼女は、現在二児の母となり、岡崎市に移り住んでいる。

稲熊町の閑静な住宅地に、彼女を訪ねた。オリンピックというひのき舞台で、世界の強豪としのぎを削ったとは思えないほどの、穏やかな笑

顔で迎えていただいた。

「実は、小学生のころは他の競技の部活動に入っていました。でも、担任の先生が、ポトボールやバスケットボールを授業と一緒にやってくれて、楽しいスポーツだなあ、いつかやってみたいなあと思いはじめました。そして、中学一年のときに、仲のよい友達に誘われたこともあり、バスケットボール部に入部しました。」

中学、高校と、長身を生かしたセンタープレイヤーとして活躍したが、転機となったのが、社会人チームである「シャyson」へ入部したときであったと言う。

「それまでは、背が高いということ、ゴール近くのポジションだったので、身体接触が多く、性格上合いませんでした。ところが、このチームでは、遠くから打つスリーポイントシューターを練習させてくれたんです。フォームが固まるまで四年間かかりましたけどね。」

入社二年目でレギュラーになり、その後六年間、日本代表としても活躍する。

「いちばんうれしかったのは、社会人チームで初めて日本一になったときです。決勝戦で、一点差で負けていて、残り十四秒で私の打ったシュートは外れました。しかし、それを拾ったチームメイトがゴールを決めてくれたのです。オリンピックの勝



利もうれしかったのですが、チームメイトと優勝を勝ち取ったあの試合が忘れられません。」

最後に、子供たちに、そして教員にメッセージをいただいた。

「子供たちには、好きなことが見つかったら、とにかく続けていくことが大切だと言いたいですね。」

「先生たちには、子供たちと、いろんなことを一緒にやって、楽しさを伝えてほしいと思います。」

清川さんの小学校時代、一緒にバスケットボールをやってくれた担任の先生は、決して運動の得意な先生ではなかったそうである。

氏名 きよかわ あき  
生年月日 昭和四十四年十一月十三日  
住 所 岡崎市稲熊町

### 立腰道

竜美丘小学校長 早川 正春



「立腰道」。若い先生方から、「何それ」という声が増えてきそうである。これは、かつて、岡崎の冬季研修会の講師でもあった教育者 森信三（明治二十九年—平成四年）先生が提唱されていたものだ。

本校の一年生の教室には、「座り方・立ち方」を示した掲示物がある。この中に、「背筋をびんと伸ばす」という表記がある。表現に多少の差はあっても、こうした類いの掲示物は、どの一年生の教室にもあるのではないだろうか。教科指導員会から出されている「指導の手引（第三十二集）」にも、「膝を直角に曲げ、足の裏は床にしっかりとつける。背筋を伸ばして聞く」など、学習指導の基本として記されている。

また、今次改訂される学習指導要領では、日本の伝統と文化を尊重す

## 「おれって天才」

矢作南小 吉田 正明

真剣なまなごしでたし算の二十五マス計算に挑戦するA男。

「できたあ。」

「おう、三十三秒。」

「先生、新記録、新記録。先生、おれってすごい、おれって天才。」

A男のうれしそうな声が響く。

A男は現在四年生。二年前のA男は、学力不振、授業中じっとしてられず、周囲から責められると感情的になってパニックを起こす。「おれなんか死んでやる」と、ペランダに足をかけ担任を驚かせたこともあった。そんな状況を少しでも改善できないかと、母親が通級指導教室への入級を希望してきた。

最初は、A男の五分と持たない集中力のなさに戸惑った。叱ると石のように堅くなる。A男のペースに合わせ、A男が楽しいと感じる授業を心がけた。A男の



できそうな問題を用意し、それで百点をとると喜び、やる気になっていった。遊びながら計算練習ができるゲームも取り入れた。早めに終わって一緒に遊ぶと、とても喜んだ。A男との信頼関係ができると、私の指示を素直に聞き入れるようになってきた。苦手なことでも「がんばってみる」と言うようになり、A男が少しずつ変わってきた。



## 本当の「多文化社会」

六ツ美北中 川端 尚子

昨年、日本語が全くわからないA子が転入してきた。授業中に寝たり、奇声を発したり、突然教室を動き回るなど突拍子もない行動が多く、クラスの生徒も困惑気味であった。クラスでは、給食での完食が当たり前だったが、残飯が出るようになった。日本食が合わないのか、わが

ままで残すの無理由も分からず、クラスの生徒もいらだち始めた。

クラス

の生徒は、

「ある日突

然、言葉

の分からない国にやって来て、あなたたちは普通に生活できるのか」

「うまく適応できるために、自分が何を

してあげたらよいかを考えてほしい」という話をした。生徒たちは

真剣な眼差しで聴いていた。

数日後、給食委員のB子の生徒手帳はポルトガル語のメモで埋めつく

された。「食べて」「座って」「静かに

して」。B子のポルトガル語は不思議

と通じた。それを見た他の生徒たち

も、ポルトガル語に挑戦し始めた。少

しずつ、A子と他の生徒の距離も縮

まり、A子の生活も落ち着いてきた。

三年生になり、公民で「多文化社

会」について学ぶ。A子自身はもち

ろんのこと、すでにA子とのかかわ

りを通して、他の生徒たちも本当の

「多文化社会」を学んでいる。



る教育が強調されている。中学校では、剣道や柔道などの武道が必須となるが、これらは形を重視している。文化面の書道、茶道、華道等も形から入るように入、学習にも基本的な形がある。「形」は小事かもしれないが、大事はこの上に成る。

私たちは、日々、学習・生活指導

を通して子供と対峙している。先の

森先生は、日常実践の五か条として、

次のようにまとめられている。

あ 朝のあいさつ 人より先に

す すまいるは 心の扉ひらく鍵

こ 腰骨立てて 一意専心

そ 「場」のお掃除は こころの

お掃除

揃えた履物 心も揃う

は はがきの活用 ご縁をつなぐ

「あすこそは」の視点で、目の前の

子供や自分自身を見つめ直してはい

かがか。大切なことは、教師自身が

実践者であること。言葉で導く人は

もちろん導いが、後ろ姿で導く人は

さらに導い。子供や保護者からの信

頼は、小事を確実にこなす教師の姿

から生まれる。温故而知新。



▲縦割りグループによる「城南カーニバル」エンディングパレード（城南小）

近年、地域における人間関係の希薄化や少子化により、生活の中で子供が異年齢集団でかわる機会が減少している。そのため子供の社会性を育てる意味から、改めて学校の教育活動の中で異年齢・異学年交流の必要性が求められている。

岡崎市内でも、全校児童数の少ない小学校では、清掃や給食の時間など、日常生活の中で上級生と下級生が協力して活動している学校は多い。また、年間を通して計画的に活動しながら子供どうしのかかわりを深め、思いやりの心をはぐくんでいる学校もある。

生活科や総合的な学習、小中の学校間交流の進展から、幼保小の交流や小中で連携した活動を展開している学校も増えてきた。それらの交流は、子供どうしの関係を深めると同時に、その地域で生きる子供と地域のつながりを強める意味からも、大きな教育的効果がある。

さらに、田植えやお茶の収穫などの勤労体験に異学年で取り組んだり、英語のコミュニケーション活動をベア学年で実施したりと、その学校にしかない特色ある交流活動を行っている学校もある。その学校の地域性や特徴を生かし、独自の工夫を凝らして子供たちの豊かな学びや成長を促している。

上級生と下級生が協力して取り組む交流活動は、ピア・サポート（仲間どうしの助け合い）という考えから予防教育的な生徒指導の推進を図る方法として見直しが図られている。これからも子供どうしの絆を強め、豊かな心と社会性をはぐくむために、それぞれの学校や学校間で異年齢・異学年交流活動の工夫に期待したい。

### 年間を通した縦割りグループ交流



▲「なかよしグループ」によるなかよし遠足（岡崎小）



▲「スクラム活動」による交流遊び（山中小）

一年間いっしょに活動して一年間、集会や城南カーニバルでグループのみんなとがんばることができてとても楽しかったです。低学年の子たちをまとめるのはとてみたいへんでした。しかし、六年生のみなさんはやさしく声をかけて、みんなを引っ張ってくれました。私も、そんな信頼される六年生になりたいと思います。

城南小 六年生

## 各学校の特色ある異年齢・異学年交流の取組

学校名	異年齢・異学年交流活動の内容
連尺小	・月1回「連尺みどりの日の除草」
竜谷小	・さつまいもの栽培や収穫、長縄とび大会
福寿小	・運動会の中で縦割りグループによる応援合戦
常盤南小	・わらびご飯の会、七草がゆの会など
常盤東小	・対抗石投げ競争、川遊びの会など
常盤小	・運動会やカルタ取り大会などの行事を縦割りグループによる対抗戦で開催
奥殿小	・岩松保育園の徳児と行うもち花作りの会
細川小	・5・6年生が企画・運営するゲームに、縦割り班でチャレンジしていく学校行事「細川チャレンジワールド」
大樹寺小	・毎月1回、上学年と下学年で行う英語のコミュニケーション交流
矢作東小	・6年生が企画・運営する遊びのコーナーで交流を図る集会「矢東キッズランド」
小豆坂小	・毎週火曜日の事前活動「ふれあいタイム」
六ツ美西部小	・「ペアでふれあおうタイム」による交流遊び
大高河小	・全校児童で行う煎茶の手もみ体験や茶会
宮崎小	・複式学級を生かした日常生活の活動
形勢小	・ランチルームで全校児童と食べる給食
東海中	・通学団で実施する地域のお年寄りへの表敬訪問
六ツ美中	・六ツ美中部小・六ツ美南部小の児童といっしょに行う田植えやさつまいも作りなど
矢作北中	・学区安全活動としての保育園・幼稚園訪問
六ツ美北中	・文化祭において地域の小学生を楽しませる模擬店の企画・運営

※ この他にも学区清掃や河川美化活動、生徒会レクなどの交流活動は多くの学校が取り組んでいる。

## 小規模校の交流活動

▶ 全校児童で行う体育学習  
(鳥川小)



▶ 「なかま班」での楽しい給食  
(夏山小)



▶ 「なかまグループ」によるササユリ栽培・保護活動  
(下山小)



## 幼保小及び小中の連携した異年齢交流



▲ 小中交流による鹿乗川清掃活動  
(矢作中・矢作西小)



▲ 「3校合同ふれあいデー」による学級交流  
(竜南中・緑丘小・上地小)



▲ 六ツ美中保育園の園児と1年生の児童で行ったたまねぎ蒔き  
(六ツ美中部小)

## 学びを深める交流活動の工夫

美川中生徒フォーラム  
昨年行われた「美川中生徒フォーラム」で、一年から三年までの縦割りの十五グループに分かれて人権について話し合いました。三年生は学校全体を見通した意見を活発に出し、充実したフォーラムになりました。今年もこれを行います。美川中の伝統にしていきます。

美川中  
三年生



▲ 4校合同による命についての交流集会  
(常盤中・常盤東小・常盤南小・常盤小)



▲ ペア学年による茶摘み体験  
(大門小)

# お知らせ

## ●教育最新情報

### ○学校裏サイトに対する具体的な対応

教育現場において、学校裏サイトがにわか大きな問題となってきた。こうした喫緊の課題に対して、市教育委員会は、「学校裏サイト対策協議会」を立ち上げ、子供たちを取り巻くネット環境の健全化を図るために具体的な対応をしている。

その一つとして、去る七月八日には、福祉会館六階大ホールで、市内全小中学校教頭の参加による協議が行われた。協議会では、愛知県警サイバー対策室の担当者による講話とともに、学校裏サイトに対する具体的な対策について、パソコンと携帯電話での実演をしながら研修を深めた。



また、今後の対応について、各校でのチェック機能を強化するとともに、学校間のネットワークの確立についても協議された。

学校裏サイトの問題は、容易には解決できないと思われるが、岡崎の子供たちを守るために、今後、市内の全小中学校が協力して、対応していくことを確認した。

### ○不登校児童生徒への対応

全国的に不登校児童生徒が年々増えていく傾向にある中、岡崎市では「一人を救う」「新たな一人をつくらない」を合言葉に、様々な不登校児童生徒への対策を進めている。特に、この夏休みは立ち直りのチャンスととらえ、積極的な働きかけが期待される。

「一人を救う」ためには、次のことが有効であろう。

・電話、家庭訪問、暑中見舞い

・個に応じた学習のサポート  
・登校体験、屋外での活動体験

・「親の会」等による情報交換  
・二学期からの目標づくり  
・一方、不登校傾向にある児童生徒には、次のような取組が考えられる。

・個に応じたサポート  
・部活動の出席状況の把握  
・電話、家庭訪問、手紙等による担任や学校との関係づくり

・キャンプやレクリエーション等の開催

・二学期行事に向けた学級の取組への意欲付け

不登校対策が成功するかぎりは、学校全体の熱意である。担任教師だけの対応ではなく、個別支援のチームをつくり、複数で対応することも重要であろう。教育研究所も学校の取組を積極的に支援している。教育研究所やハートピアとの連携も図りながら、個に応じた細かい対応をしていきたい。

## ●ハートピアだより

### ○ハートピア

#### 一学期を終えて

本年度も、学校の始業式より一週遅れでハートピアの一学期「始業式」を行った。昨年度から引き続き通所している児童生徒十九名に加え、新しい通所生一名の二十名でスタートした。当日は、各校の校長先生も何名か出席いただき、式終了後は通所生と握手をする温かい光景も見られた。

その後十三名増え、三名復帰し、現在は三十名となった。特に五月以降は、中学二年生の増加が目立つ。面談をする和不登校になった理由は様々であるが、最近では友達のこと、部活のこと、学習問題など、学校に関する理由だけではなく、家庭の問題も多いことが分かる。

ハートピアの指導員は、学校と密接に連絡を取りながら通所生の学校復帰を目指しているが、家庭との連携も大切にしていく。また、年三回実施する親の会も家庭との連携

を深める会となっており、一学期は七月二日に行われた。

一学期、子供たちは様々な活動に取り組んだ。室内での活動が中心であるが、ハートピアでは、体験活動を重視して計画的に行っている。野菜の栽培、花の種まき、川での魚つかみ、竹の子掘り、梅取りなど、野外での活動や子ども美博へ出かけての造形教室なども実施した。このような活動に取り組んでいるときの子供たちは明るく元気である。通所を始めたころは暗い表情の子も、体験活動を通して元気になっていく。エネルギーを蓄え、学校へ復帰できた通所生も数名あり、収穫の多い一学期であった。



・カ  
ツ  
ト  
六ツ美北中 杉崎秀夫

## 理科教育実践発表会 (昭和35年)

写真提供：甲山中学校

昭和二十八年、理科教育振興法が制定されたが、教材・教具の充足率は極めて低いものであった。岡崎市ではそうした実情を踏まえて、昭和三十一年度から独自の科学振興費が計上され、五か年計画で理科教育備品の改善・充実策が講じられた。

写真は、昭和三十五年甲山中学校が開催した「理科教育実践発表会」の様子である。基礎的事項の定着を確実にし、実験・観察を積極的に取り入れ、科学的な考え方や方法を重視した授業を目指した。また、教材別実験箱を三三三六箱設置し、生徒が実験を手軽にできるようにした。

こうした取組は、現在の岡崎市の理科教育に受け継がれており、実験を重視した授業実践は全国的にも高い評価を得ている。

# フォトヒストリー

## 岡崎の教育



# この本を

- |            |        |
|------------|--------|
| *ズッコケ中年三人組 | 郡須 正幹  |
| ポプラ社       | ¥1,000 |
| *河合隼雄のこころ  | 河合 隼雄  |
| 小学館        | ¥1,300 |
| *東京坊ちゃん    | 林 望    |
| 小学館        | ¥552   |
| *運命を開く     | 安岡 正篤  |
| プレジデント社    | ¥1,529 |

- |           |        |
|-----------|--------|
| *野村の「暇」   | 野村 克也  |
| KKベストセラーズ | ¥1,500 |
- 常に弱小チームの監督を引き受け、個々の選手を再生させて優勝という結果を出す野村監督。今年の楽天主も目が離せない。考える野球を目指し、選手の意識改革を図り、その特性を見抜いて適材適所に配し、負けない試合を仕組む。野球人である前に、人間教育を重んじ、選手をプロに育て上げることに主眼を置く。まさに、教師の育成もしかりである。「組織はリーダーの力量以上に伸びない」は、心に重く響く。
- 連尺小 鈴木 純子

思いをこめて、暑中見舞いを書く。クラス集合写真にメッセージを添える。「一学期は、漢字の練習を頑張ったね」「二十五メートル、泳げるようになったかな。」

街で見かける子供たちは、少し大人びて見える。夏休み中は、普段とは違う体験を数多く重ねているからであろう。

白地に赤の日の丸を付けたユニフォーム。手に汗握る応援。そんなオリンピックがまもなく開催される。北京では、選手たちの「技術力」「精神力」そして「チームワーク」が、極限のところまでぶつかり合うだろう。

頑張れ日本。思いを北京に届かせたい。

## シオ スア

アイスクリームを食べながらふと考えた。もし世界が一〇〇人の村だったら、食べたいときにアイスクリームを食べられる人は何人いるだろうか。今後、最高気温が四十度を超える夏休みが当たり前になるかもしれない。目の前の小・中学生たちに、大人は今、何をすべきか。

すつと手を差し伸べていっしょに活動する上級生。「ありがとう」と笑顔で受け答える下級生。子供どうしが互いに気遣う姿に、ぬくもりのあるつながりを感じる。いつかあんな上級生になろうという小さな憧れは、きっとその子自身の豊かな人間関係を創り上げるだろう。

